



NISSAY
ASSET MANAGEMENT

<購入・換金手数料なし> ニッセイ外国債券インデックスファンド

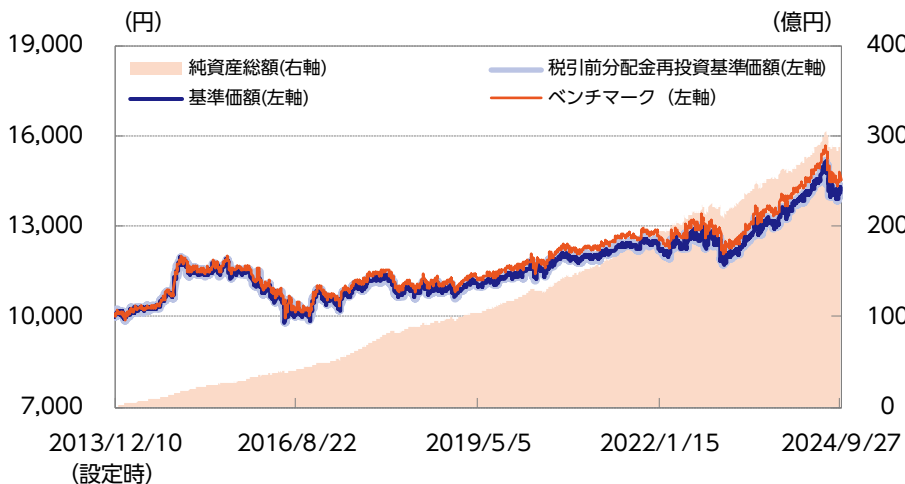
追加型投信／海外／債券／インデックス型

マンスリーレポート

2024年9月末現在

運用実績

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	14,068円
前月末比	31円
純資産総額	286億円

分配の推移（1万口当り、税引前）

第4期	2017年11月	0円
第5期	2018年11月	0円
第6期	2019年11月	0円
第7期	2020年11月	0円
第8期	2021年11月	0円
第9期	2022年11月	0円
第10期	2023年11月	0円
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

基準価額の騰落率（税引前分配金再投資）

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.2%	- 5.9%	- 0.4%	7.7%	14.5%	40.7%
ベンチマーク	0.1%	- 6.0%	- 0.4%	7.7%	15.1%	45.1%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金（税引前）を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります（個人受益者の場合）。

※ファンド騰落率は分配金（税引前）を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

※ベンチマークはFTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）としています。FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）は設定日前日の終値を起点として指数化しています。

※FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。なお、「円換算ベース」とは同インデックスをもとに、委託会社が独自に円換算したものです。

マザーファンドの状況

ポートフォリオ情報

平均格付	※1	AA
平均修正デュレーション	※2	6.56年
平均最終利回り	※3	3.23%
平均クーポン	※4	2.42%
平均直利	※5	2.47%
銘柄数		852

※1 格付は、ムーディーズ、S & Pのうち、上位の格付を採用しております。以下同じです。

また平均格付とは、マザーファンドが組み入れている債券にかかる格付を加重平均したものであり、当ファンドにかかる格付ではありません。

※2「デュレーション」=債券投資におけるリスク度合いを表す指標の一つで、金利変動に対する債券価格の反応の大きさ（リスクの大きさ）を表し、デュレーションが長いほど債券価格の反応は大きくなります。

※3「最終利回り」=満期までの保有を前提とすると、債券の購入日から償還日までに入ってくる受取利息や償還差損益(額面と購入価額の差)等の合計額が投資元本に対して1年当りどれくらいになるかを表す指標です。

※4「クーポン」=額面金額に対する単年の利息の割合を表します。

※5「平均直利」=平均クーポン÷平均時価単価

組入比率

債券	98.3%
現金、その他	1.7%

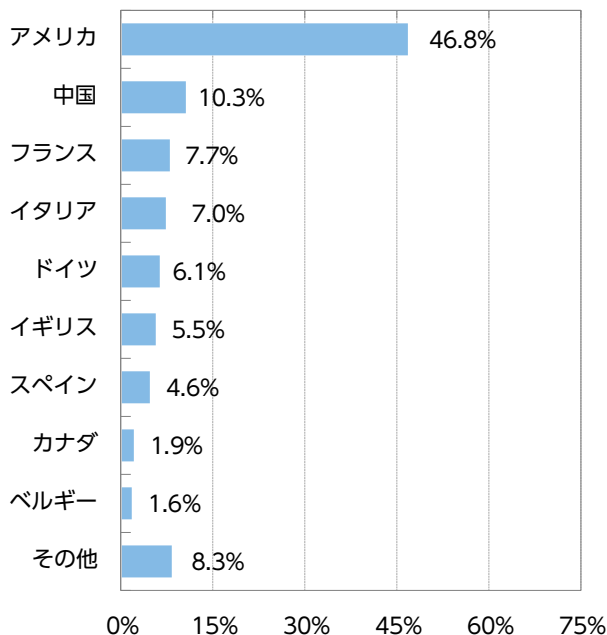
※対純資産総額比

残存年数別構成比率

短期（3年未満）	28.8%
中期（3年以上7年未満）	34.1%
長期（7年以上10年未満）	13.7%
超長期（10年以上）	23.3%

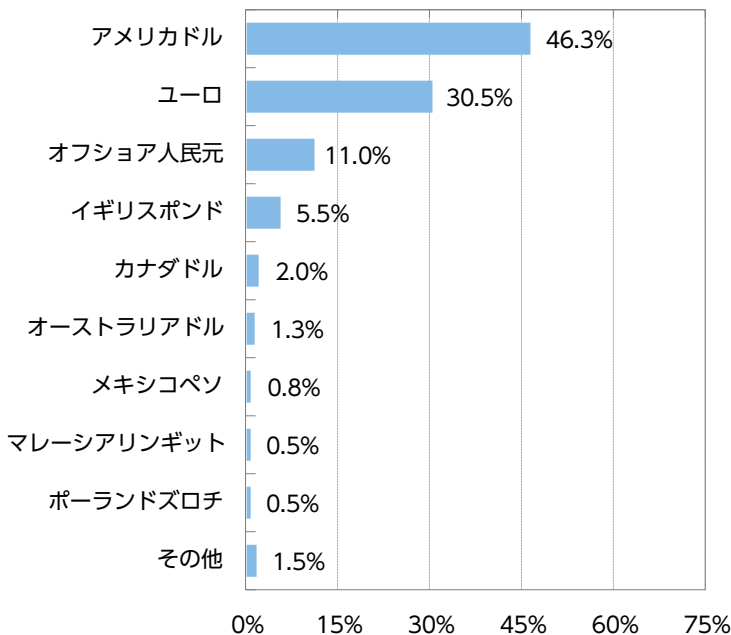
※対組入債券評価額比

国・地域別組入比率



※国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。
※対組入債券評価額比

通貨別構成比率



※対純資産総額比

組入上位10銘柄

	銘柄	通貨	償還日	クーポン	格付	比率
1	アメリカ国債	アメリカドル	2025/11/15	2.250%	A A A	2.9%
2	アメリカ国債	アメリカドル	2026/02/15	1.625%	A A A	2.3%
3	アメリカ国債	アメリカドル	2026/05/15	1.625%	A A A	1.8%
4	アメリカ国債	アメリカドル	2026/08/15	1.500%	A A A	1.7%
5	アメリカ国債	アメリカドル	2029/02/15	2.625%	A A A	1.5%
6	アメリカ国債	アメリカドル	2029/05/15	2.375%	A A A	1.4%
7	アメリカ国債	アメリカドル	2027/02/15	2.250%	A A A	1.2%
8	アメリカ国債	アメリカドル	2028/08/15	2.875%	A A A	1.1%
9	アメリカ国債	アメリカドル	2027/05/15	2.375%	A A A	1.1%
10	アメリカ国債	アメリカドル	2027/11/15	2.250%	A A A	1.0%

※対組入債券評価額比

当月の市況動向

当月の米長期金利は前月から低下しました。上旬は8月の米サプライマネジメント協会（ISM）製造業景況感指数や7月の米雇用動態調査（JOLTS）の求人件数、8月のADP全米雇用リポートなどの指標が軒並み低調であったことを受け、利下げ観測の高まりに伴って金利は低下基調で推移しました。中旬に入り、8月の米消費者物価指数（CPI）は市場予想よりもやや強い結果となりましたが、金利は一時的な上昇にとどまりました。米連邦公開市場委員会（FOMC）では約4年半ぶりとなる利下げが決定され、利下げ幅も通常の倍にあたる0.5%となったものの、参加者の政策金利見通し（ドットチャート）では長期見通しが上方修正されたことを受けて将来の利下げ幅が限定的となる見込みが高まり、FOMC後に金利は上昇基調で推移しました。下旬には8月の米個人消費支出（PCE）物価指数が市場予想を下回ったことなどを受けて、再び金利は低下しました。米長期金利は月末時点で3.78%となりました。

当月の欧州（独）長期金利は前月から低下しました。上旬は米国の低調な経済指標を受けて、米金利に連動する形で欧州金利も低下しました。中旬の欧州中央銀行（ECB）理事会では政策金利を0.25%引き下げる決定がなされたものの、2024年・2025年のコアインフレ率の見通しが上方修正されたことや、ラガルドECB総裁が記者会見において賃金の高止まりを理由に次回10月会合での利下げはデータ次第と発言したことなどを受け、欧州金利は上昇しました。中旬以降は米金利に連動する形で欧州金利が上昇する場面もあったものの、9月のユーロ圏HCOB総合購買担当者景気指数（PMI）が景気の分水嶺（れい）とされる50を下回る軟調な結果となり欧州の景気減速懸念が高まったことや、9月のフランス・スペインのCPI上昇率が市場予想を下回ったことを受けてインフレ鈍化の期待が高まったことなどから、欧州金利はおおむね横ばい圏で推移しました。欧州（独）長期金利は月末時点で2.12%となりました。

当月の米ドル・円相場は前月から下落しました。上旬は8月の米ISM製造業景況感指数や7月の米JOLTSの求人件数、8月のADP全米雇用リポートなどの指標が軒並み低調であったことを受け、米国の利下げ観測の高まりに伴ってドル・円は下落基調で推移しました。FOMCでは約4年半ぶりとなる利下げが決定され、利下げ幅も通常の倍にあたる0.5%となったものの、参加者の政策金利見通しでは長期見通しが上方修正されたことを受けて将来の利下げ幅が限定的となる見込みが高まり、ドル・円は一時的に大きく上下するもFOMC前後での水準はほぼ変わらずとなりました。月末にかけては自民党総裁選で石破氏が選出されたことで国内経済の先行きに対する懸念が高まったことや、8月の米PCE物価指数が市場予想を下回りインフレ鈍化が確認されたことなどを受け、ドル・円は下落しました。月末時点では142.73円（東京市場）と前月末比2.07円のドル安・円高となりました。

当月のユーロ・円相場は前月から下落しました。上旬は米国の低調な経済指標を受けた米欧の金利低下に伴って、ユーロ・円は下落しました。中旬のECB理事会では政策金利を0.25%引き下げる決定がなされたものの、市場の予想通りであったためユーロ・円は横ばいで推移しました。中旬以降は9月のユーロ圏HCOB総合PMIが景気の分水嶺とされる50を下回ったことなどを受けて欧州の景気減速懸念が高まったものの、ユーロ・円は上昇基調で推移しました。月末にかけては、フランス・スペインの9月のCPI上昇率が市場予想を大きく下回り、ECBの追加利下げ観測が高まったことなどを受けてユーロ・円は下落しました。月末時点では159.43円（東京市場）と前月末比1.01円のユーロ安・円高となりました。

ファンドの特色

- ①日本を除く主要国の国債に投資することにより、F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）に連動する投資成果をめざします。
- ②購入時および換金時の手数料は無料です。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド（マザーファンドを含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。また、F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）の動きに連動することを目標に運用しますので、F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）の動きにより基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。**

主な変動要因

債券投資 リスク	金利変動 リスク	金利は、景気や経済の状況等の影響を受け変動し、それにともない債券価格も変動します。一般に金利が上昇した場合には、債券の価格が下落します。
	信用リスク	債券の発行体が財政難・経営不振、資金繰り悪化等に陥り、債券の利息や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなる場合（債務不履行）、またはそれが予想される場合、債券の価格が下落することがあります。
為替変動リスク		原則として対円での為替ヘッジを行わないため、外貨建資産については、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。
カントリーリスク		外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。
流動性リスク		市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予想される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

❗ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要がある場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。
これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受け付けを中止する、また既に受け付けた換金の申込みの受け付けを取消しする可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として6営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。 ※申込締切時間は2024年11月5日から「午後3時30分」までとする予定です。ただし、申込締切時間は販売会社によって異なる場合があります。
	申込不可日	ロンドンの銀行、ニューヨークの銀行のいずれかの休業日と同日の場合は、購入・換金の申込みの受け付けを行いません。
決算・分配	決算日	11月20日（該当日が休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。
その他	信託期間	無期限（設定日：2013年12月10日）
	繰上償還	委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることがあります。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の対象となり、当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象となります。ただし、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 詳しくは、販売会社にお問合せください。

❗ ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	ありません。
換金時	換金時手数料	ありません。
	信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎日	運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に 年率0.154% (税抜0.14%) 以内の率をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.0011% (税抜0.001%) をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
随時	その他の費用・ 手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。

- ! 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
- ! 詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

- ・少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」は少額上場株式等に関する非課税制度であり、NISAをご利用の場合、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たしたファンドを購入するなど、一定の条件に該当する方となります。詳しくは、販売会社にお問合せください。
- ・外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が投資信託説明書（交付目論見書）の記載と異なる場合があります。
- ・法人の場合は上記とは異なります。
- ・確定拠出年金法に基づく運用として購入する加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用され、またNISAおよび外国税額控除の適用対象外です。
- ・税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00~17:00（土日祝日・年末年始を除く）
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	ホームページ https://www.nam.co.jp/
三菱UFJ信託銀行株式会社	

